

# 新人図書館職員の日常

布野真秀

## 図書館での一日

平成二四年の秋に図書館職員として勤務をはじめたから、はやいもので数ヶ月の時間がながれました。まだまだ学ぶべきことは多く職員と名乗るのも気恥ずかしいくらいですが、今回このような場をいただいたので、新人職員の目から見た東京外国語大学附属図書館の姿をつづってみようと思います。

現在、私はサービス係という部署で勤務しており、図書館の仕事としてよくイメージされるカウンターでの利用者サービス全般に携わっています。利用者の方と直にふれあう機会が多いので、図書館の蔵書や、提供しているサービスに関わる知識など、多くのことが必要とされます。しかし、そのぶん図書館の実態を肌で感じられ、勉強になることが多いです。

まずは、図書館の一日がどのように過ぎていくのかをごく簡単にご紹介したいと思います。図書館の平日の開館時間は午前九時ですので、それにあわせて行う諸処の開館作業で一日が始まります。新聞の配架や、閉館中にブックポストに返却された図書の見直しや、閉館後に職員が交代でカウンター対応を行います。カウンターでは、貸出・返却や資料

の出納・検索依頼の受付、学外者の来館受付が主な業務となります。

カウンターに立たない間は、事務室内で様々な業務を行います。私の場合、原稿執筆時点(平成二五年二月)では、年度末で卒業される学生に貸出中の資料の返却をお願いしたり、退官される先生方の蔵書の配置変更、春休み中に行う図書の配置移動の準備などを行っています。また、月末休館日には、館内の大掃除など、普段できない諸処の業務を行います。

なお、図書館の中では他にも様々な業務——図書・雑誌の購入や、蔵書の登録、資料貸借・文献複写の依頼など——があります。私が携わっているのはそのうちのほんの一部分にすぎませんが、図書館の裏側でどのようなことがなされているのか、その一端をお見せすることができたなら幸いです。

## 「東京外国語大学」の図書館

世界諸地域の言語・文化・社会の研究を行う、という本学の特徴は、図書館にもあらわれています。日本語・英語以外の資料が蔵書の過半数を占めるといふ蔵書構成はもちろんですが、私がお借りしている蔵書で最もユニークに感じたのは、蔵書の種類の獨創性です。

普通の図書館では、資料を分類する際は、その主題を基準とします。たとえば、このブロックは哲学に関する図書、次のブロックは歴史に関する図書、といった分類です。しかし、無数

にある世界の諸言語・諸文化を研究する本学においては、記述に用いられる言語も、資料の利用において重要なファクターとなります。そこで当館では、まず言語による分類を行い、そのうえで主題による分類を行うという独特な方法によって、言語と主題の双方による検索を可能にしています。

最初は多少戸惑いましたが、カウンターで利用者の方からの相談——たとえば、「英語で記述された漢字についての図書を利用したい」「モンゴル語で記述された社会主義についての図書を探している」など——を受けていると、本学の目的に合致するよう考え抜かれた分類方法であることを実感し、いまだに感服しています。ただ、そのぶん、はじめは配列規則が少々複雑に感じられることがあるかもしれません。もし資料の探し方などでご質問がありましたら、遠慮なくカウンターで職員にご相談ください。よろこんでお手伝いいたします。

### これから

図書館は、大学における教育・研究の核だとよく称されます。当館においても、その役目を十全に果たせるよう努力していますが、まだ手の届かない部分は多くあります。蔵書数、蔵書の増加に対するスペースの不足、開館日数、館内の美観や、閲覧席の数など、利用者の方からいただくご指摘や、館の運営上の問題などに対して真摯に向き合っていますが、様々な制約がある中で全てをクリアするのは一朝一夕ではできません。

せん。

こうした難題に取り組んでいくうえで、なにより重要なのが、利用者のみなさんとの協働だと私は考えています。実際に、当館の運営において、学生や教職員の方々のご協力は不可欠なものとなっています。たとえば、多種多様な言語で記述された蔵書を維持管理していくうえで、それぞれの言語を専攻・研究している学生や教員の方々のご助力は欠かせませんし、主に学部生の方のレポート・論文の執筆などを手助けする多言語コンシェルジュの存在は、熱心な院生の方々のおかげで成り立っています。利用者としての立場から管理運営を担う立場になりましたが、図書館をより満足のいくものにしていくうえで、利用者のみなさんと力をあわせることの重要性を実感しています。

平成二四年には図書館四階にラーニングコモンズ (@ラボ) が新設され、ノートパソコン・プロジェクトなどの機器の貸出が開始されるなど、当館はより活気溢れる学習の場であるよう歩みが続けています。今後も、利用者の方々に満足していただけるよう、様々な取り組みが行われていくでしょう。その歩みは、私たち職員だけでなく、利用者の方々と共に行われていくものなのだと思います。みなさんが「外大の図書館を利用できてよかった」と心から思えるよう、私も諸先輩方から学び、そしてみなさんと力をあわせて、微力ながら本学の発展に寄与できればと思います。

(ぬの・まさひで 学術情報課サービスマン)